

**製品名: MLL4 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13961**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	298kDa

**抗原情報**

遺伝子名	WBP7
別名	HRX2 KIAA0304 KMT2B MLL2 MLL4 TRX2
遺伝子 ID	9757.0
SwissProt ID	Q9UMN6
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 1060-1140

**背景**

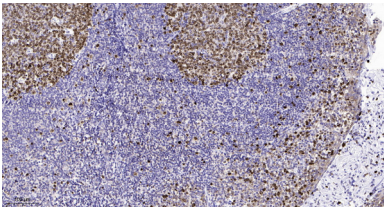
この遺伝子は、CXXC ジンクフィンガー、3つの PHD ジンクフィンガー、2つの FY リッチドメイン、そして SET (変異抑制因子、ゼステ増強因子、トリソラックス) ドメインを含む複数のドメインを含むタンパク質をコードしています。SET ドメインは、MLL (混合

系白血病) ファミリーのタンパク質を特徴付ける保存された C 末端ドメインです。この遺伝子は成人組織において普遍的に発現しています。また、固形腫瘍細胞株でも増幅されており、ヒト癌に関与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されていますが、短い方の転写産物の全長は不明です。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]触媒活性: S-アデノシル-L-メチオニン + ヒストン L-リジン = S-アデノシル-L-ホモシステイン + ヒストン N(6)-メチル-L-リジン。;注意: このタンパク質は、PubMed:10637508 および PubMed:10409430 によって初めて MLL2 と命名されました。MLL2 は、12 番染色体に位置する別のタンパク質に対応しています (AC O14686 を参照)。;疾患: 膵臓癌でしばしば増幅されます。;機能: ヒストンメチルトランスフェラーゼ。ヒストン H3 の「Lys-4」をメチル化します。H3 'Lys-4' メチル化は、エピジェネティックな転写活性化の特定のタグを表します。;PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。;類似性: ヒストンリジンメチルトランスフェラーゼ ファミリーに属します。 TRX/MLL サブファミリー。;類似性: CXXC 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。;類似性: SET 後ドメインを 1 つ含む。;類似性: SET ドメインを 1 つ含む。;類似性: A.T フック DNA 結合ドメインを 3 つ含む。;類似性: PHD 型ジンクフィンガーを 3 つ含む。;サブユニット: MLL3/MLL4 複合体の構成要素で、少なくとも MLL3、MLL4、ASH2L、RBBP5、DPY30、WDR5、NCOA6、KDM6A (または KDM6B) 、PAXIP1/PTIP、および C16orf53/PA1 から構成される。;組織特異性: 広く発現している。精巣で最も高発現する。脳、骨髄、心臓、筋肉、腎臓、膵臓、脾臓、胸腺、前立腺、卵巣、腸、結腸、末梢血リンパ球、胎盤にも存在します。

## 研究分野

-

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。